

23 事業別予算執行状況調べ

目 名	一般管理費	(平成29年5月31日現在)
事業名	事業の概要(目的、実績等)	
赴任旅費	異動者の赴任に係る旅費(対象者1名)	

目 名	財産管理費	(平成29年5月31日現在)
事業名	事業の概要(目的、実績等)	
県有施設営繕事業	県有施設(農業試験場)7箇所を修繕	

目 名	農業総務費	(平成29年5月31日現在)
事業名	事業の概要(目的、実績等)	
先端的農林水産試験研究推進強化事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ H29試験設計意見交換会構成員及びH28水田転作野菜研究会構成員の特別旅費</li> <li>・ 「長期派遣研修」に係る普通旅費及び役務費</li> </ul>	
農林水産総務課管理運営費	「鳥取フェア」出席に係る普通旅費	
農林水産試験場臨時的調査研究事業	「飼料用米の安定生産技術の確立」事業及び「水稻高密度栽培の本県での適応性検討」事業に係る消耗品費	

目 名	農業改良普及費	(平成28年5月31日現在)
事業名	事業の概要(目的、実績等)	
普及職員研修費	普及指導員資格試験受験に係る普通旅費	

目 名 農作物対策費		(平成28年5月31日現在)
事業名	事業の概要(目的、実績等)	
生産振興推進事業	花壇設置(花苗等購入)に要する経費	
有機・特別栽培農産物等総合支援事業	日本有機農業学会に係る年会費(負担金)	

目 名 肥料植物防疫費		(平成28年5月31日現在)
事業名	事業の概要(目的、実績等)	
農薬適正使用推進事業	<p>農薬の適正使用を推進することで、安心・安全な農産物の制裁を支援する。</p> <p>農業試験場では県特産物のうち、ラッキョウなどのマイナー作物(年間出荷量が3万トン以下の作物)で問題となる病害虫防除に必要な農薬の登録を拡大するため、農作物中の残留農薬分析を行った。</p>	

目 名 土地改良費		(平成28年5月31日現在)
事業名	事業の概要(目的、実績等)	
農地法面管理省力化実証事業	事業に係る消耗品費	

品名	形式及び規格	取得年月日	用途	稼働日数(日)	燃料		修繕費等(円)	左の主な内容	備考
					消費量(L)	金額(円)			
トラクター	キセキ NT43FFUGCY	H25.6.28	耕地整地、代かき	69	768	89,544	41,321	ナタバ・ポルトナット交換	
トラクター	クボタ ZL1-33	S61.5.7	"	19	113	12,929			
トラクター	ヤンマー FX435	H4.5.15	"	24	136	15,540	70,762	調整及び部品交換修理	
トラクター	クボタ GL367QBSMAP	H10.4.27	"	50	488	55,974	216,216	シリンダーアッシー修理	
種子用コンバイン	ヤンマー CA135PT	H3.9.30	稲刈り	2	8	926			
コンバイン	三菱 MC405DGCLM	H9.9.22	"	4	40	4,620	96,563	クランクオイル等修理	
コンバイン	ヤンマー GC219	H17.6.30	"	9	83	9,551	21,254	ベルト・回転刃等交換	
コンバイン	ヤンマー AE330XJU	H23.8.31	"	19	140	16,286	39,517	バッテリー・ベルト交換	
種子用ハーベスタ	ヤンマー PKD600T	H1.9.5	"	0	0	0			
種子用ハーベスタ	ヤンマー PKD600T	H4.3.10	"	2	6	702			
テラー	ヤンマー YTA-6S	H2.6.11	収穫物等運搬	0	0	—	—	—	H28.9.15棄却
テラー	ヤンマー YT-400	H4.5.29	"	15	12	1,408	22,594	ナタ爪等交換	
テラー	クボタ TD700	H18.5.8	"	11	14	1,644	27,227	オイル漏れ修理、ミッション調整	
動力運搬車	CG191SLD-EW	H17.5.2	"	52	46	5,549	41,774	ブレーキドラム交換修理	
動力運搬車	築水キャニコムELL801KZPW	H9.10.1	"	103	51	5,881	4,795	燃料フィルター修理	
小型特殊自動車	ロードガロ SL620JBA	H27.7.23	"	107	64	6,129			
耕うん機	ヤンマー YS-80	S57.11.30	耕地碎土、畦立	1	2	234	34,204	ブラケットガード・タイヤ交換	
耕うん機	クボタ TRS70-US	H28.7.25	"	2	2	230			
管理機	ヤンマー ST-512	H1.9.25	除草土寄、畦立	0	0	0			
管理機	ヤンマー HK80XL	H20.6.16	"	5	7	0	25,056	キャブレタ交換	
管理機	エースローターIKSAR600	H3.7.9	"	3	6	726			
ネギ用管理機	ヤンマー NK7X M3	H11.4.23	"	7	16	1,920	25,326	アクセルワイヤー等交換修理	
管理機	ヤンマー RK750	H28.1.29	"	8	12	1,454	691	ピン交換	
乗用管理機	ヤンマー A-10GH	H24.1.18	"	8	48	5,897			
田植機	イセキ PC-S270	H14.4.30	田植	12	16	1,894	4,860	移植用ロータリ修理	
田植機	クボタ SP-2HDSF	H9.5.20	"	0	0	0			
乗用田植機	イセキ PM40D-DCUW	H7.5.8	"	6	13	1,671			
乗用田植機	イセキ PQ4 さなえ	H15.5.16	"	11	28	3,323	8,802	エレメント等交換	
乗用田植機	クボタ NSU67-SP2, SJ-6N	H23.5.23	"	17	29	824	10,174	ホイール関係部品交換	
バインダー	BE-50A	H17.7.29	稲、麦刈	2	2	970	18,480	結束部修理、パンク修理	
バインダー	ヤンマー YB65	H1.9.18	"	3	2	235	3,326	結束部調整	
バインダー	ヤンマー YB-50	H4.2.25	"	11	8	241			
大豆収穫機	ヤンマー CS21(D)	H6.11.18	大豆刈取	6	41	4,807	6,556	ベルト交換	
不耕起播種機	みのる PFT-6-1	H8.10.1	乾田直播用播種	0	0	0			
フォークリフト	小松 FG09-2	H9.10.16	収穫物等運搬	72	122	14,903	100,545	点検及び部品交換	
歩行型マルチャー	ヤンマー PRT851F-RB40ABD	H9.7.15	耕うん、畝立、マルチング	0	0	0			
大豆脱粒機	PBT610	H16.3.23	大豆脱穀機	4	4	490			
シリンダカッター	CX-201S	H17.9.30	農用カッター	1	4	452			
自走式動噴	VSG457F-10	H27.1.16	作物防除	15	26	3,132			
合計				680	2,357	270,086	820,043		



1

事業名	水稲新品種育成試験		担当室別	作物研究室
実施計画期間	S43年度 ～ 継続		(予算額)	(1,730,000円)
			支出済額	1,687,105円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 県の顔となるような水稲新品種の育成	場内  智頭町 倉吉市	初期世代 40a 生産力検定 26a 現地試験 10a	鳥取県における水稲の各栽培地帯及び栽培体系に適應する優良品種を育成する。	<p>(成果)</p> <p>82組の交配、75組のF1個体養成、75組合せ約5,000個体選抜、90組合せ137系統の生産力検定を行い、鳥系123号から鳥系糯127号まで5系統を新規に品種選定試験に向けて、地方系統番号を与えた。</p> <p>品種選定試験で10系統を試験しており、そのうち5系統は有望であり、奨励品種採用に向けた現地試験や良食味米生産のための試験を進めている。</p> <p>このうち、鳥系酒105号は県内の酒造業者による大量醸造試験を実施しており、佳良な結果が得られた。</p> <p>また、鳥系香122号は県内のカレーを扱う飲食店において、カレー用の米飯として食味試験を実施し、継続的に利用したい店舗があった。</p> <p>これら2品種について品種登録申請に向けて手続きを進めている。</p> <p>(課題)</p> <p>気候温暖化や耐病性に対応しうる品種の育成。</p>

事業名	奨励品種等選定試験		担当室別	作物研究室
実施計画期間	S29年度 ～ 継続		(予算額) 支出済額	(1, 738, 000円) 1, 684, 783円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 1.水稲 主要農作物種子制度運用基本要綱に基づき、基本調査および現地調査を行い、供試品種の特性を明らかにする。	場内 県内現地 10ヶ所	40a 35系統  各10a 極早生粳 2ヶ所各1系統 早生粳 7ヶ所各2系統 極早生糯 2ヶ所2系統	本県で普及奨励する水稲の優良品種を選定するため鳥取農試、独立行政法人、公立試(福井県農業試験場ほか6機関)で育成された系統について特性を調査検討する。	(成果) (1)予備調査 14系統を継続とし、12系統を打ち切りとした。 (2)本調査 7系統を継続とし、2系統を打ちきりとした。 (3)現地調査 本調査と同様の4系統を極早生から中生まで供試し、調査結果を上記の判定に活用した。
				(課題) 新配布系統を含め早期に優良品種を選定。
2.麦類 主要農作物種子制度運用基本要綱に基づき、基本調査および現地調査を行い、供試品種の特性を明らかにする。	場内 県内現地 1ヶ所	10a 二条大麦 2系統 5a 二条大麦 1系統	本県で普及奨励する麦類の優良品種を選定するため、ビール麦主産地の育成県(福岡・栃木)で育成された系統について特性を調査検討する。	(成果) (1)予備調査 二条大麦は2系統を継続とした。 (2)本調査 二条大麦の1系統を継続とした。 (3)現地調査 本調査と同様の1系統を供試し、調査結果を上記の判定に活用した。
				(課題) 新配布系統を含め早期に優良品種を選定。
3.大豆 主要農作物種子制度運用基本要綱に基づき、基本調査を行い供試品種の特性を明らかにする。	場内 県内現地 4ヶ所	15a 12系統  各10a 早生 3ヶ所各1系統	本県で普及奨励する大豆の優良品種を選定するため、国立研究開発法人(次世代作物開発研究センターほか3機関)、公立試(長野県農業試験場)で育成された系統について特性を調査検討する。	(成果) (1)予備調査 7系統を継続とし、5系統を打ち切りとした。 (2)本調査 1系統を継続とした。 (3)現地調査 本調査と同様の1系統を供試し、調査結果を上記の判定活用した。 本調査で試験している「東山228号」について、平成29年度の奨励品種採用を目指して手続きを進めている。
				(課題) 新規系統を含め、本県において栽培に適した優良品種を選定

事業名	新品種栽培マニュアル策定試験		担当室別	作物研究室
実施計画期間	H4年度(水稻・大豆)、H15年度(麦類) ～ 継続		(予算額) 支出済額	(1,424,000円) 1,384,270円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
<p>(単) 奨励品種への採用が見込まれる水稻・大豆・麦類品種・系統について、円滑な普及と導入農家における生産安定を図るため、特性を活かした栽培法を確立する。 また、奨励品種採用後に明らかになった栽培上の問題点についても技術対策を策定する。</p>	場内	20a 1品種	<p>水稻 酒造適性に優れた「鳥系酒105号」の栽植密度の違いによる生育、収量、品質等への影響を明らかにする。</p>	<p>(成果) 水稻 「鳥系酒105号」は、栽植密度45株/m<sup>2</sup>においても実用上十分な収量、品質を得られ、疎植適性があることがわかった。また、「強力2号」以上に倒伏に強い特性が再確認された。</p>
	場内	3a 2品種	<p>大麦 「しゅんれい」の出穂期予測を継続するとともに、有望品種「アスカゴールド」の生育データを蓄積する。</p>	<p>大麦 葉耳間長によって実用的な出穂期予測が可能で、データ蓄積により精度が向上した。予測情報は現地に情報提供し、活用された。</p>
	場内	1a 3系統	<p>大豆 早生有望系統「東山228号」の晩播、密播適性の把握</p>	<p>大豆 早生品種は一般に晩播すると収量低下するが、本系統は密播することで収量低下を防ぎ、品質も維持できると考えられた。</p>
				<p>(課題) 水稻 高温登熟性にすぐれた品種・系統等の栽培特性の検討</p>
<p>水稻主要品種における生育データの集積・解析と情報提供</p>	<p>場内 県内現地 14ヵ所</p>	<p>場内7a 坪刈2～3 地点/箇所</p>	<p>「コシヒカリ」、「ひとめぼれ」、「きぬむすめ」の生育データの集積するとともに、それらの生育情報について随時現地に提供を行う。</p>	<p>(成果) 生育推移や収量等のデータを集積した。生育状況及び幼穂形成期等の予想日について「稲作技術情報」やHP等を通じて関係機関に情報提供した。</p>
				<p>(課題) データ集積を継続し、生育指標値を随時修正していくとともに、生育ステージ等の情報を随時発信</p>

26 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成29年5月31日現在)

4

事業名	きぬむすめの等級・食味の高位安定化栽培技術の確立		担当室別	環境研究室
実施計画期間	H27年度 ～ H29年度		(予算額) 支出済額	(1,897,000円) 1,866,755円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 本研究では「きぬむすめ」の市場評価の維持・向上による生産者の所得向上を図るため、等級・食味の高位安定化栽培技術の構築を目指す。	県内きぬむすめ栽培ほ場(延べ数) 場内 鳥取 岩美 八頭 湯梨浜 三朝 北栄 琴浦 大山 若桜町	7ヶ所 4ヶ所 1ヶ所 1ヶ所 2ヶ所 2ヶ所 1ヶ所 1ヶ所 5ヶ所 1ヶ所	6 主な事業に関する調べに記載	(成果) 6 主な事業に関する調べに記載
				(課題) 6 主な事業に関する調べに記載



事業名	主要農作物原採種事業		担当室別	作物研究室
実施計画期間	S29年度(水稲)、S56年度(大豆) ～ 継続		(予算額) 支出済額	(2, 290, 000円) 2, 222, 105円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 1.水稲の原原種の採種	場内	8.9a	水稲原原種の選抜、維持。	「コシヒカリ」30系統、「日本晴」27系統の選抜、採種を行った。 (課題) 特になし。
2.水稲原種の採種	場内	136a	優良な原種を増殖し、採種ほに供給する。	(成果) 「ひとめぼれ」、「コシヒカリ」、「きぬむすめ」、「日本晴」、「ハクトモチ」について採種を行った。 (課題) 特になし。
3.大豆の原原種の採種	場内	9.3.a	大豆原原種の選抜、採種。	(成果) 「サチユタカ」38系統、「緑だんだん」27系統「鳥取大山2001」25系統、「三朝神倉」27系統について、選抜、採種を行った。 (課題) 「鳥取大山2001」においてウイルス病が多発し、ほ場審査で全系統が不合格となった。
4.大豆原種の採種	場内・現地	117a	優良な原種を増殖し、採種ほに供給する。	(成果) 「サチユタカ」、「緑だんだん」、「鳥取大山2001」、「三朝神倉」について採種を行った。 (課題) 「鳥取大山2001」においてウイルス病が多発し、ほ場審査で全系統が不合格となった。
5.麦の原原種の採種	場内	3.0a	大麦原原種の選抜、採種。	(成果) 「しゅんれい」30系統、「ダイセンゴールド」17系統について、選抜、採種を行った。 (課題) 両品種とも黒節病の発生が多く、防除対策が急務となっている。
6. 麦原種の採種	場内	37a	優良な原種を増殖し、採種ほに供給する。	(成果) 「しゅんれい」、「ダイセンゴールド」について採種を行った。 (課題) 特になし。

6

事業名	水田営農の収益性を向上させる経営改善手法の確立		担当室別	作物研究室
実施計画期間	H27年度 ~ H29年度		(予算額) 支出済額	(1,028,000円) 987,838円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 1.収益性が向上する経営モ	県内現地	5経営体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・優良経営体からの経営に関する聞き取り調査を行い、集計する。</li> <li>・大規模水田営農経営体のICT利用実態および導入意向についてアンケート調査を行った。</li> </ul>	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内優良経営体の経営調査を行い、水田営農における部門別および複合経営モデルを作成するための素材を得た。</li> <li>・営農管理に経営主の事務負担が多く、情報の共有化に問題を抱えている実態が明らかになった。ICT機器導入は限定的であったが、必要性を感じる経営主が多いこともわかった。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査結果を材料に営農モデルを作成する。</li> </ul>
2.収益性向上につながる低コスト栽培法の技術確立	場内 県内現地 2ヶ所	10a 100a	<ul style="list-style-type: none"> <li>・湛水直播栽培のさらなる省力・低コスト化を図るため、催芽粃湛水散播栽培法の技術を確立する</li> <li>・側条施肥田植機の施肥部分を利用した条播栽培を検討する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・播種後の芽干し、中干しの程度が収穫時の倒伏に影響を与え、こららの確実な実施が安定生産に必要であると示唆された。</li> <li>・条播栽培によりほ場内のばらつきが小さくなった。収量性はばら播き栽培と同等であった。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・倒伏を防止するための水管理法の検討</li> <li>・直播に適する飼料イネ品種の選定</li> </ul>

事業名	有機栽培「トレジャー技術」を協働で発掘・解析・検証拡大する事業		担当室別	有機・特別栽培研究室
実施計画期間	平成 26 年度 ～		(予算額) 支出済額	(2, 101, 000円) 1, 998, 809円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 1. 有機栽培現地実践ほ場の調査・検証(概要調査) 1) 水稲作	鳥取市 八頭町 北栄町	有機栽培水稲ほ場 3㍍ <sup>2</sup> ル <sup>2</sup> フ <sup>2</sup> 5ほ場	水稲の有機栽培を実践している生産者の現地実践ほ場を対象に調査を行い、優良技術・事例の発掘、解析と問題点の抽出を行う。	(成果) 土寄せ除草機による除草では、1回の除草で高い除草効果を確認。自然農法事例については調査・解析中。 (課題) 土寄せ除草機による除草、自然農法の事例について、引き続き調査・解析を進める。
2) 畑作(大豆、ラッキョウ)	南部町 琴浦町 鳥取市 北栄町	有機栽培大豆ほ場 3㍍ <sup>2</sup> ル <sup>2</sup> フ <sup>2</sup> 13ほ場 有機栽培ラッキョウほ場 2㍍ <sup>2</sup> ル <sup>2</sup> フ <sup>2</sup> 2ほ場	畑作(大豆、ラッキョウ)の有機栽培を実践している生産者の現地実践ほ場を対象に調査を行い、優良技術・事例の発掘、解析と問題点の抽出を行う。また、場合によっては技術支援も行う。	(成果) ・大豆では、田畑輪換2年目でも高い抑草効果があることを確認。中耕培土による除草対策では、大型化する雑草の種子量が多い場合には効果が不十分なことが判明。新規取組事例について調査・解析を開始。前年度被害が顕在化していることが判明した子実害虫の被害実態について調査・解析を開始。 ・ラッキョウでは、秋増肥による増収効果を確認。 (課題) 大豆では、田畑輪換、子実害虫実態について引き続き、調査・解析を進める。ラッキョウでは、秋増肥技術の低コスト化について検証を進める。
(単) 2. 先進的な水稲有機栽培技術の科学的解明(詳細調査)	鳥取市	有機栽培水稲ほ場 3㍍ <sup>2</sup> ル <sup>2</sup> フ <sup>2</sup> 10ほ場	概要調査において抽出された優良事例について、更に詳細に調査、解析を行う。	(成果) 優良事例では極めて除草効率が高く、その要因として、ほ場の土壌が軟らかく除草効果が高いためであることが判明。 (課題) 土壌を軟らかくするための手法を明らかにする。
(単) 3. 水稲の有機栽培体系化技術の実証・展示	場内	13a	農業試験場が確立・体系化した技術等をモデル展示的に実証展示し、実用性について検証する。	(成果) 除草時期・回数と除草効果との関係について検証を開始。 (課題) 除草効果が高まる手法を明らかにする。
(単) 4. 「鳥取県有機農業推進ネットワーク」との連携	室内		当団体において有機農業者相互の情報交換・研鑽が円滑に進むよう支援する。	(成果) 関係機関と連携し、研修会等を2回支援。 (課題) 活動が円滑に進むよう引き続き支援を行う。

事業名	水稲・麦・大豆の高品質・安定生産を 目指した病害虫防除技術の確立		担当室別	環境研究室
実施計画期間	H27年度～		(予算額)	(1,723,000円)
			支出済額	1,667,254円
試験研究 調査の目的	試験研究調 査を行う場 所	試験研究 調査の 対象・数 量・範囲	本年度の試験研究 調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
<p>(単・委)</p> <p>鳥取県の水稲・麦・大豆栽培において被害につながる病害虫を対象に、本県に最も適した効率的防除法および省力防除法を確立し、</p> <p>(1) 安定生産および高品質化、(2) 防除の省力・低コスト化、(3) 人と環境にやさしい農業の推進を図る。</p>	<p>場内</p> <p>鳥取市</p> <p>八頭町</p> <p>智頭町</p> <p>智頭町</p> <p>三朝町</p>	<p>30a</p> <p>20a</p> <p>20a</p> <p>20a</p> <p>20a</p> <p>10a</p>	<p>1 水稲の種子伝染性病害(イネもみ枯細菌病)の防除対策の確立</p> <p>※各種防除資材の効果検討に必要な罹病種子の作製</p> <p>2 水稲中生品種における病害虫防除体系の確立</p> <p>※「きぬむすめ」(高品質米の安定生産を目指す)</p> <p>※飼料米用「日本晴」(低コスト化を目指す)</p> <p>3 イネいもち病の薬剤耐性菌発生下における防除技術の確立</p> <p>※苗いもちの効率的防除体系の検討</p> <p>※新規剤の効果と実用性確認</p> <p>4 ダイズにおける病害虫防除技術の確立</p> <p>※ダイズ害虫マメシクイガに対する効率的防除技術の確立</p> <p>5 生産安定のための水稲省力防除技術の確立</p> <p>※イネ苗立枯病、薬剤感受性低下イネドロオイムシ、イネ縞葉枯病(ヒメトビウンカ)</p>	<p>(成果)</p> <p>1 水稲の種子伝染性病害罹病種子を作製し、試験に必要な病原性を確認。</p> <p>2 水稲中生品種における病害虫防除体系</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いもち病、紋枯病、ウンカ類について、育苗箱施用剤(新規剤、既存剤)の防除効果を確認。</li> </ul> <p>3 イネいもち病(薬剤耐性菌)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・苗いもちに対するケイ酸資材の防除効果、葉いもちに対する新規剤の防除効果を確認。</li> </ul> <p>4 ダイズ病害虫(マメシクイガ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フェロモントラップによって、発生消長と発生盛期を解明。</li> <li>・薬剤の防除効果と散布適期を把握。</li> </ul> <p>5 省力防除技術</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イネ苗立枯病：新規剤の防除効果を確認。</li> <li>・薬剤感受性低下イネドロオイムシ：育苗箱施用剤の防除効果を確認(H28成果情報化)</li> <li>・イネ縞葉枯病(ヒメトビウンカ)：ヒメトビウンカに対する既存剤および新規剤の防除効果を確認。</li> </ul>

事業名	新農薬の適用に関する試験		担当室別	環境研究室
実施計画期間	S46年度 ～ 継続		(予算額) 支出済額	(550,000円) 550,000円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(委) 本県の普通作物病害虫に適した新規の防除薬剤の選択および登録促進を目的として、日本植物防疫協会から受託し、効果を確認するとともに、本県の防除対策に資する。	場内 八頭町 智頭町 三朝町	35a 20a 20a 10a	殺菌剤およびその混合剤10剤、殺虫剤およびその混合剤7剤、計17剤の防除効果ならびに殺菌剤1剤、殺虫剤1剤、計2剤の倍量薬害の有無を検討する。	(成果) ○新規薬剤の防除効果は、判定基準A(実用性が高い)110剤、B(実用性がある)5剤、C(効果は低いが実用性あり)0剤、D(実用性低い)は2剤、少発生のため判定不能は1剤であった。 ○新規薬剤2剤の倍量薬害は認められなかった。  (課題) なし

11

事業名	水稲大豆等新除草剤適用性試験		担当室別	作物研究室
実施計画期間	H24年度 ～ 継続		(予算額) 支出済額	(668,000円) 668,000円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(委) 1.水稲新除草剤試験	場内	10a	水稲用新除草剤の本県への適応性検討。	(成果) 6剤について実用可能と判定した。 (課題) 難防除雑草に有効な新除草剤の探索。
2.効果の高い除草剤使用方法の確立	場内	10a	現地に普及する除草体系について、実規模面積での実証を行う。	(成果) 1剤について実用性があると判断した。 (課題) 普及に移す除草剤の実用化の検討

事業名	食のみやこブランドを支える特産豆類の生産性向上試験		担当室別	作物研究室
実施計画期間	H27年度 ～ H29年度		(予算額) 支出済額	(391,000円) 386,358円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 1. 大豆剪葉摘心の処理時期と処理高さの検討	場内	40a	本県育成地大豆3品種における剪葉摘心処理の時期および高さの検討	(成果) 3品種とも剪葉摘心によって節数及び着莢数が増加する傾向にあり、やや増収し粒大、品質および成分は維持された。 (課題) 年次変動の確認と成果情報化
2. 密播無培土栽培と剪葉摘心処理の組合せによる生産性向上	現地ほ場	80a (大山町2箇所、三朝町1箇所)	地大豆品種の密播無培土栽培体系における剪葉摘心処理効果の検討	(成果) 現地主産地のほ場において、密播無培土体系でも分枝節が発達し、倒伏を抑制しながら着莢が確保できた。 (課題) 年次変動の確認と成果情報化
3. 小豆における無培土密播栽培の確立	現地ほ場	40a (淀江町1箇所)	小豆における密播無培土栽培体系の増収効果等の検討	(成果) 大納言小豆、小粒白小豆とも、密播無培土栽培によって、慣行培土栽培と同等以上の収量を確保できた。 (課題) 成果情報化し小豆についての課題は完了

事業名	転作野菜の導入を促進する排水等対策技術の確立		担当室別	作物研究室
実施計画期間	H28年度 ～ H32年度		(予算額) 支出済額	(1,835,000円) 1,699,995円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 1.ほ場条件に応じた排水対策の選定手法の確立	県内現地 水田転作野菜ほ場	6か所	排水対策の選定に必要な着眼点を整理するため、現地ほ場の排水不良要因を把握する	(成果) 排水不良要因は①下層土が硬く水の浸透を妨げている②地下水位が高い③排水位が高く逆流の恐れがある の3つに大別されそれぞれ必要な対策を考察した (課題) 広範囲のほ場条件での調査、診断を行う
2.作物の能力を利用した排水対策	場内	14a	大豆・トウモロコシ跡作の排水改善効果など、作物の能力を最大限活用することで有利な作付け体系の構築を目指す。	(成果) トウモロコシ跡作は比較的水の浸透が大きく、地下部の根の広がりに影響を与えられた。大豆跡作は畝部の土壌乾燥が早かった。 (課題) 各作付け跡の白ネギ栽培への影響の把握
3.転作ほ場に適したアスパラガス栽培法の確立	場内	2a	初期数年間の収量を増加させ早期に成園並の収量を確保する栽培法として密植栽培を検討する。	(成果) 栽植密度2倍で栽培を行ったところ、定植1年目における地上部の生育は慣行と同等であると考えられた。 (課題) 2年目以降の収穫調査



26 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成29年5月31日現在)

14

事業名	水田転換畑における自給飼料の安定生産技術の確立		担当室別	環境研究室
実施計画期間	H26年度 ～ H29年度		(予算額) 支出済額	(2,043,000円) 1,971,193円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 水田転換畑における飼料用 作の施肥改善 および排水対策等について 検討し、安定 生産技術の確 立を図る。	場内 鳥取	2ヶ所 3ヶ所	高品質な発酵粗飼料用ダイズを得るための栽培技術の確立を図る。また、飼料用トウモロコシの高位安定化を図るため、効率的な施肥の検討を行う。	(成果) 発酵粗飼料用大豆におけるイタリアンライグラスの抑草効果を明らかにした。また、発酵粗飼料用大豆の特性把握するとともに、最適な播種方法を明らかにした(H28成果情報化)。  飼料用トウモロコシ栽培において、窒素、リン酸の適正施肥量の把握を行った。また、窒素追肥の増収効果を明らかにした。  (課題) なし

26 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成29年5月31日現在)

16

事業名	土壤保全対策技術確立事業		担当室別	環境研究室
実施計画期間	S54年度 ～ 継続		(予算額) 支出済額	(5,895,000円) 5,845,652円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(委) ＜農地管理実態調査＞ 地球温暖化防止と土壤肥沃度の変化を把握するため、農地に蓄積している炭素・窒素の量とその変化についての調査を行う。	県内13ヶ所の水田、畑、草地 (場内9、琴浦1、大山1、伯耆1、米子市1)	土壤理化学性調査、断面調査、 (18項目)、アンケート調査	適切な土壤管理法の確立にむけた土壤中の炭素、窒素量とその変動を把握する。	(成果) 計画通り調査を実施。  (課題) なし
(単) ＜土壤機能モニタリング調査＞ 県内耕地土壤の実態調査を行い、土壤管理や土壤改良のための基礎資料とする。	県内3ヶ所の水田、畑 (倉吉1、大山1、米子1)	土壤理化学性調査、断面調査、 (36項目)、アンケート調査	本年度の調査の実施と過去データの整理を行う。	(成果) 計画通り調査を実施。  (課題) なし